



校報 あずまね

<https://shiwa3.chu.jp>

時間啄啖

文責 佐藤智一

修学旅行を終えて



修学旅行のスローガンは「ハピトリ!!!」(Happy Trip)。みんなが楽しめる旅行にしたいという願いが込められたものでした。Happy…一番のしあわせは、誰もが生き生きと自分らしくいられること。一人ひとりを大事にする気持ちと行動が、そうした旅をつくったのだと思います。満開の桜が彩る函館で、目を輝かせ、和気藹々と旅を楽しむ姿にあふれた旅行でした。これからも、自分らしさを思う存分発揮して、かけがえのない中学校生活を送って欲しいと思います。

2年ぶりの授業参観・PTA総会

2019年冬からのコロナ禍以降、久しぶりに保護者の皆さんに学校に来ていただきました。PTA総会に参加されなかったご家庭もあったので、今年度の学校経営で力を入れて取り組みたいこと7点を校報にも書き記しておきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

1 信頼と安心の土台を築く「探究の対話(p4c)」

ルールに守られた中で対話を重ねて、何でも話せる仲間づくりをすることが、一番の狙いです。学級毎に週に1回、先生に決められるのではなく、面白い問いを自分たちで立てて、いろんな話をする時間を楽しんで欲しいと思っています。

2 主体性を育む「伝え合い 響き合い 高め合う授業」

小中同一テーマによる研究実践が始まっています。年4回授業研究会を合同開催し、11月にプレ学園公開研究会を開催します。

3 体験と対話で9ヵ年をつなぐ・地域と学校を学びでつなぐ「ふるさと学習」

今年新たに、地域と学校を学びでつなぐ試みを始めます。これまで地域に任せきりだったコミュニティの日の学びを、学校のふるさと学習につなげます。コミュニティの日に各公民館で地域の大人と地域課題に関するワークショップを行い、翌週の授業で報告会を行います。翌月、あずまねカフェで地域のゲストティーチャー20名を招いて5名程度の小グループで仕事や生き方について対話します。その後、地域のひと・もの・ことに関する課題を自分で立てて探究学習に取り組みます。11月の学園授業参観で、地域の関係者を招いて成果発表します。やがて地域住民の一人として活躍できる人を育てる学びになればと思っています。

4 60周年記念式典に本校卒業生 東邦大学准教授 高田英行 先生をお招きします。

10月31日の記念講演では、「33年前、盛岡一高1年在学時に高田の定理を発見した頃のお姿とその後の歩みについて」お話しいただきます。その後、高田先生の申し出により、特別授業を計画しています。「高田先生の実験！数学特別講座」と銘打って、実験を交えて生活や産業と数学のつながりを楽しく学ぶ機会にします。

5 デジタル技術を活用した時代に対応した教育への転換

家庭学習では、新たに導入する「タブレット端末用のA1型ドリルや豊富なコンテンツ」を活用して、個別最適な学びにより基礎学力の向上と主体的な学びの実現を目指します。

授業でも、ICTを活用した「探究的な学び・創造的な学び・個別最適な学び」の実現を目指します。

一斉メール「マチコミ無料版」を「らくメ」に切り替え、アプリを活用して欠席連絡・家庭宛文書・校報・学年通信をデジタル化(ペーパーレス化)します。学校ウェブサイトもリニューアルしました。学校からの情報発信を充実させます。

6 岩手県中学校文化祭舞台部門紫波地区代表発表

2年生が主体となって、紫波三中らしい内容を考え準備させて臨ませます。これから続く学校文化の礎にできればと考えています。

7 生徒指導方針：自分で決めたことを成し遂げさせ、他者に認められる経験をさせて、心の発達を保証する

自己効力感(できると自分を信じられる力)を高めた上で、自己肯定感(できてもできなくてもありのままの自分を受け入れられる力)を育てたいと考えています。

私が好きな漫画の主人公、天才バカボンのパパの言葉「これでいいのだ。」がそれを言い表しているように思います。「自分は自分だから、これでいいのだ。」という自信を持てるようにさせたいと思っています。どこに行っても自分らしく生きることが、幸せにつながるのではないかと考えてのことです。